

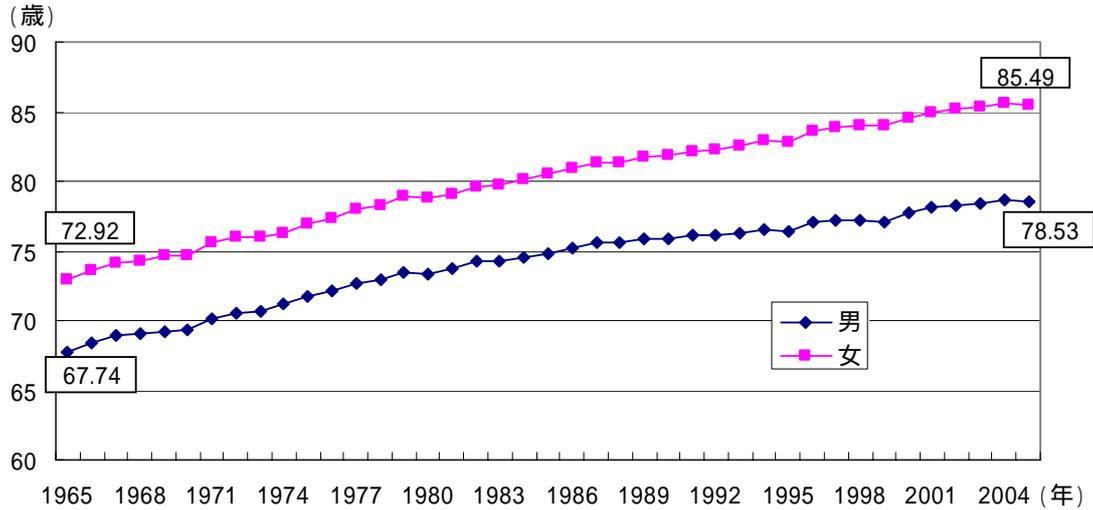
高齢者の自立した生活に対する支援(仮称)に関する監視・影響調査

関連統計データ

(1) 男女の平均寿命・世帯の状況

女性の方が男性よりも平均約7年長生き。

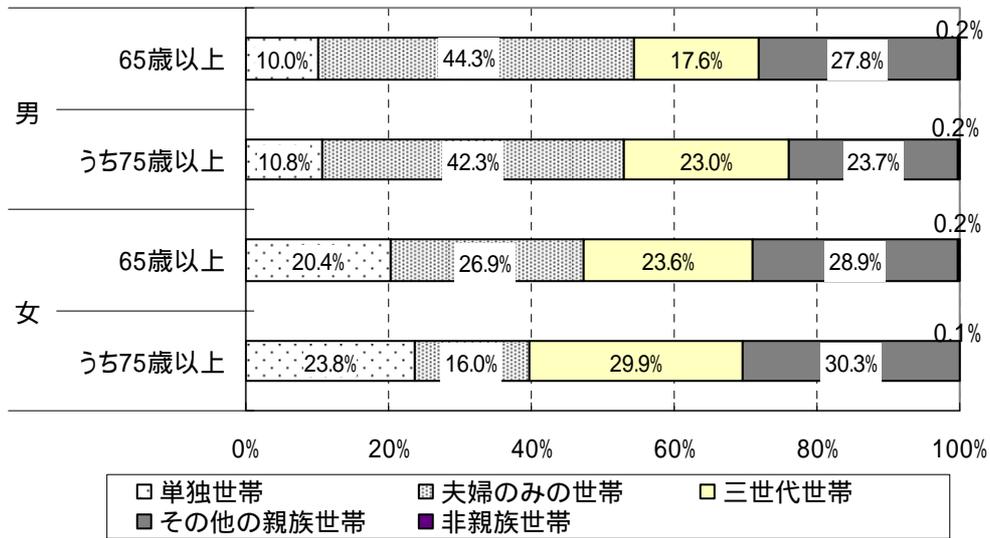
図表1 平均寿命の推移(男女別)



資料:「日本人の平均余命(平成17年簡易生命表)」(厚生労働省)
 注:1) 1965、70、75、80、85、90、95、2000年は「完全生命表」、その他は「簡易生命表」による。
 2) 1971年以前は、沖縄県を除く値である。

65歳以上高齢者の男性の約1割、女性の約2割がひとり暮らしである。

図表2 高齢者の世帯構成(男女別・一般世帯人員数)

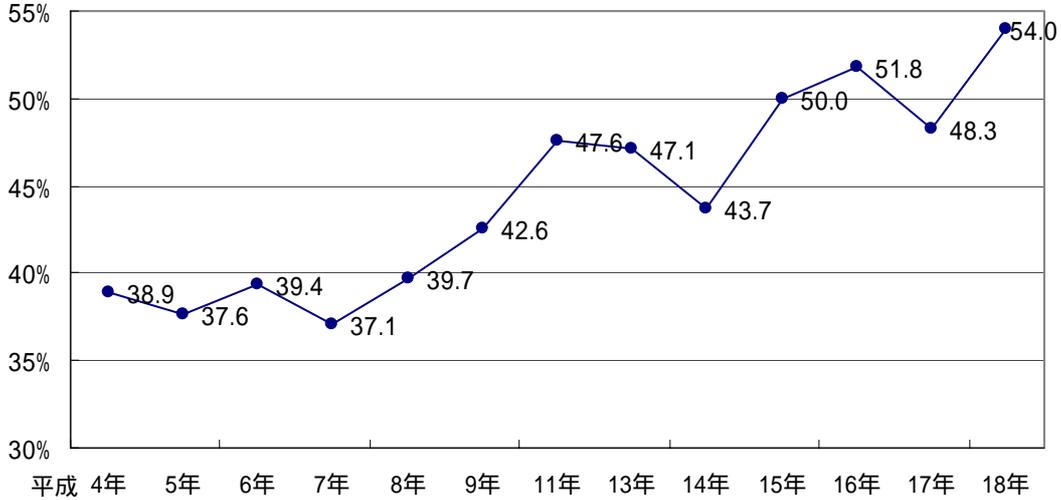


資料:「国勢調査」(総務省、平成17年)

(2) 老後不安の現状

老後の生活設計に関する不安は年々高まる傾向にある。

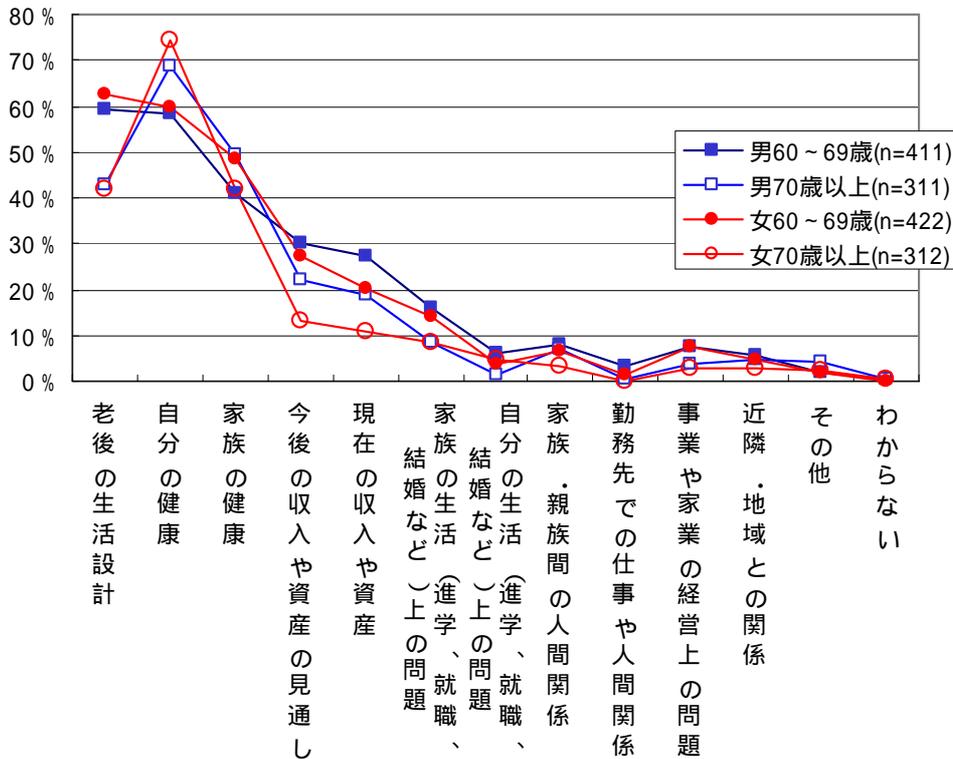
図表3 老後の生活設計について不安を感じる割合の推移(20歳以上の者)



資料:「国民生活に関する世論調査」(内閣府)

高齢者が日常生活における悩みや不安として多く挙げるのは「老後の生活設計」、「自分の健康」。年代や男女で不安の内容には違いがある。

図表4 高齢者の現在の日常生活における悩みや不安(複数回答・60歳以上・男女別)

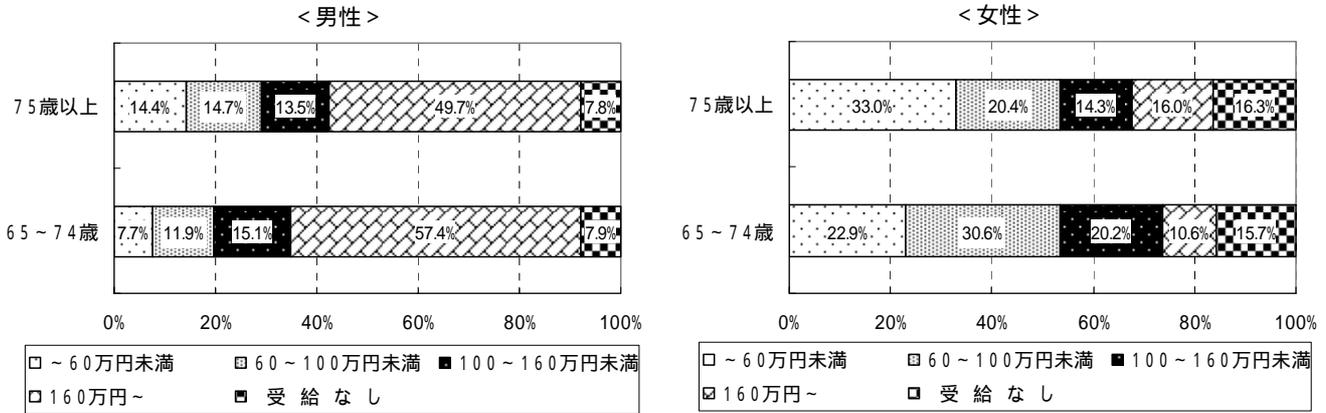


資料:「国民生活に関する世論調査」(内閣府、平成18年)

(3) 高齢期の所得状況

公的年金・恩給の受給額は女性の半数以上が100万円未満。

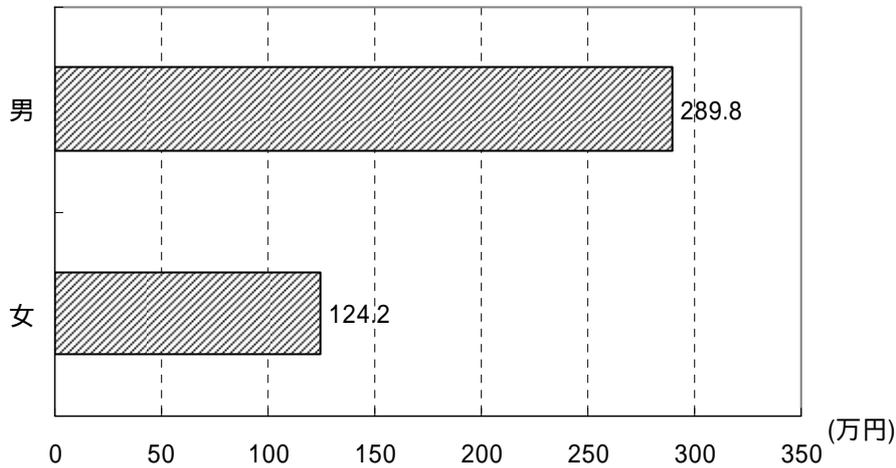
図表5 高齢者公的年金・恩給受給額構成比(男女別)



資料：「国民生活基礎調査」（厚生労働省、平成17年）

有所得高齢者1人当たりの所得には男女で2倍以上の格差がある。

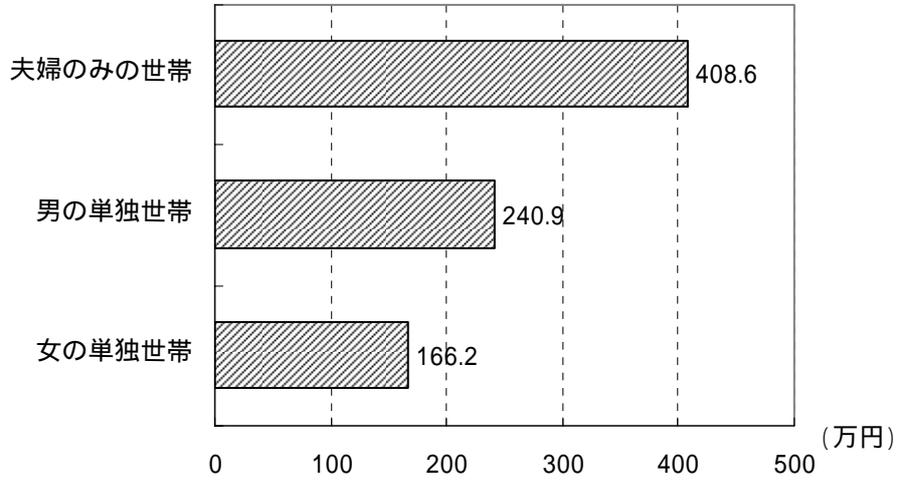
図表6 有所得高齢者(65歳以上)1人当たり年間平均所得金額(男女別)



資料：「国民生活基礎調査」（厚生労働省、平成17年）

女性の単独世帯の所得は低い水準にある。

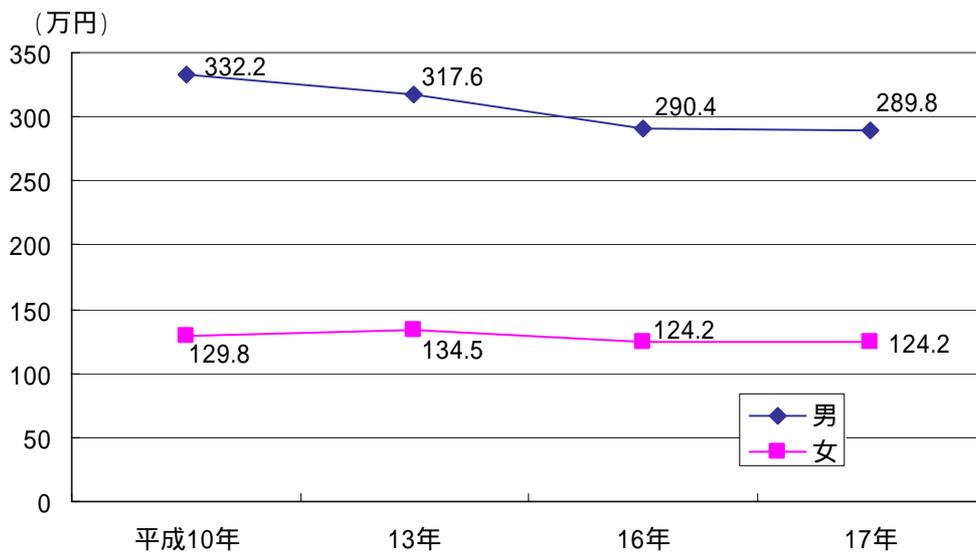
図表7 65歳以上の者のいる世帯の1世帯当たり年間平均所得金額(世帯構造別)



資料:「国民生活基礎調査」(厚生労働省、平成17年)

男性の所得も近年になって低下傾向。

図表8 有所得高齢者(65歳以上)1人当たり年間平均所得金額の推移(男女別)

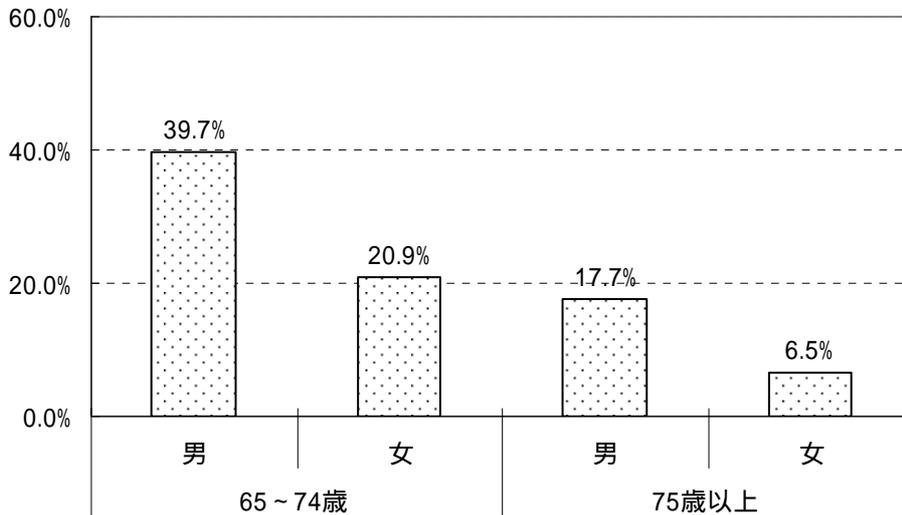


資料:「国民生活基礎調査」(厚生労働省、平成17年)

(4) 高齢者就業の実態とニーズ

前期高齢者(65～74歳)では男性の約4割、女性の約2割が就業している。75歳以上の場合も、男性の17.7%が就業している。

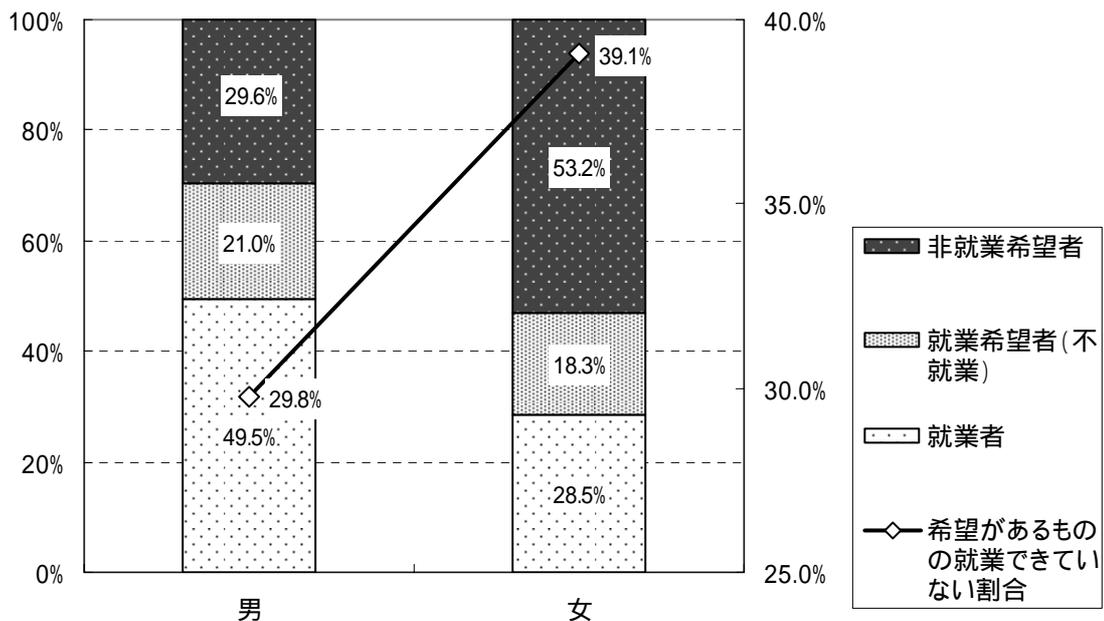
図表9 高齢者の就業率(年齢別・男女別)



資料:「国民生活基礎調査」(厚生労働省、平成17年)

65～69歳のうち就業者の割合は男性で約半数、女性で約3割。就業希望があるものの就業できていない割合は男性29.8%、女性39.1%で、女性の方が高い。

図表10 高齢者(65～69歳)の就業状況・就業希望(男女別)



資料:「高齢者就業実態調査」(厚生労働省、平成16年)

注:1) 就業者は、平成16年9月中に収入になる仕事をした者。

2) 就業希望者は、仕事をしたいと思いつながら仕事に就けなかった者。非就業希望者は、仕事をしたいと思わなかった者。

3) 四捨五入により、男は合計が100%にならない。

高齢者が就業を希望する理由は、女性は「収入を得る必要が生じた」が多い。男性は「知識や技能を生かしたい」が多い。

図表 11 高齢就業希望者の就業希望理由別割合(男女別)

(単位:%)

		失業している	収入を得る必要が生じた	知識や技能を生かしたい	社会に出たい	時間に余裕ができた	健康を維持したい	その他
男	65歳以上	8.1	13.3	15.1	4.2	8.6	36.1	14.2
	65～74歳	9.0	13.7	14.6	4.5	9.2	35.2	13.6
	75歳以上	3.2	10.9	17.9	2.6	5.3	41.5	18.1
女	65歳以上	3.4	20.1	6.9	4.6	11.4	32.7	20.1
	65～74歳	3.7	20.6	6.7	4.7	11.9	32.1	19.8
	75歳以上	1.9	17.4	8.3	4.4	8.6	36.3	22.0

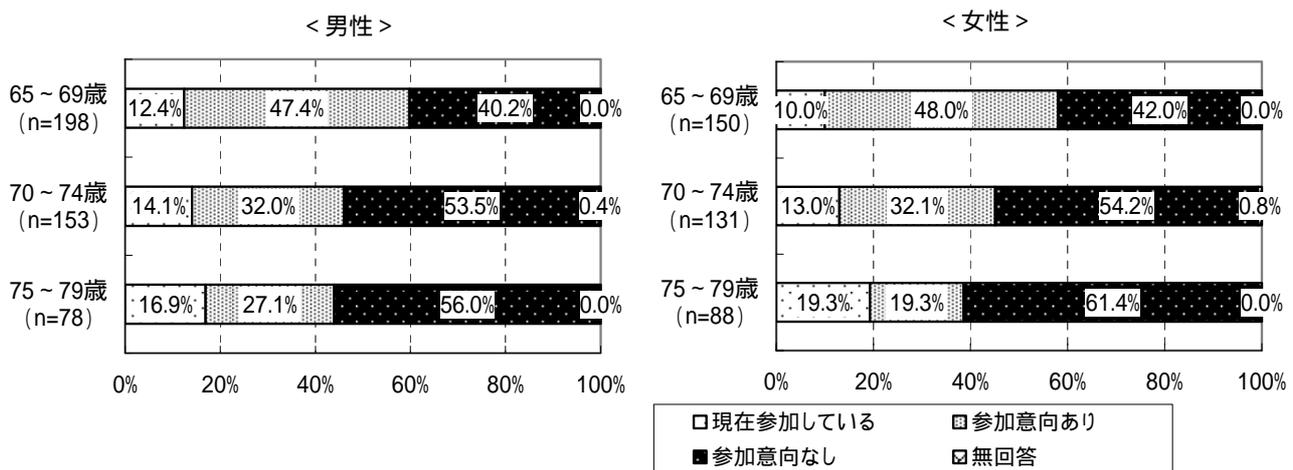
資料:「就業構造基本調査」(総務省、平成14年)

注:就業希望者とは、無業者のうち「何か収入になる仕事をしたいと思っている者」を指す。

(5) 地域・家庭における男女の生活実態とニーズ

高齢者の1～2割が地域活動に参加しており、年代が上がるほど参加率が高まる。参加意向も65～69歳では半数弱にのぼる。

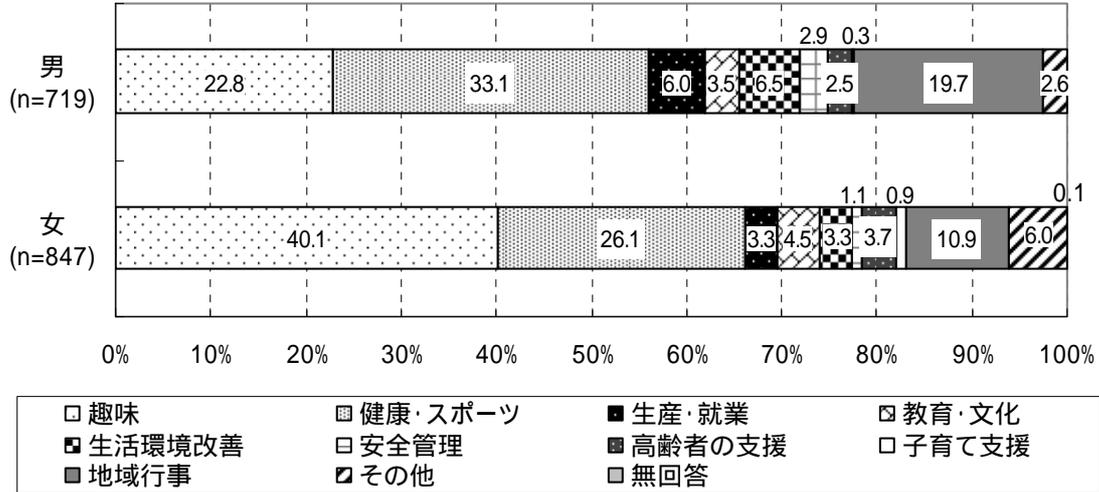
図表 12 NPO やボランティア、地域の活動などへの参加状況と参加意向



資料:「国民生活選好度調査」(内閣府、平成15年度)

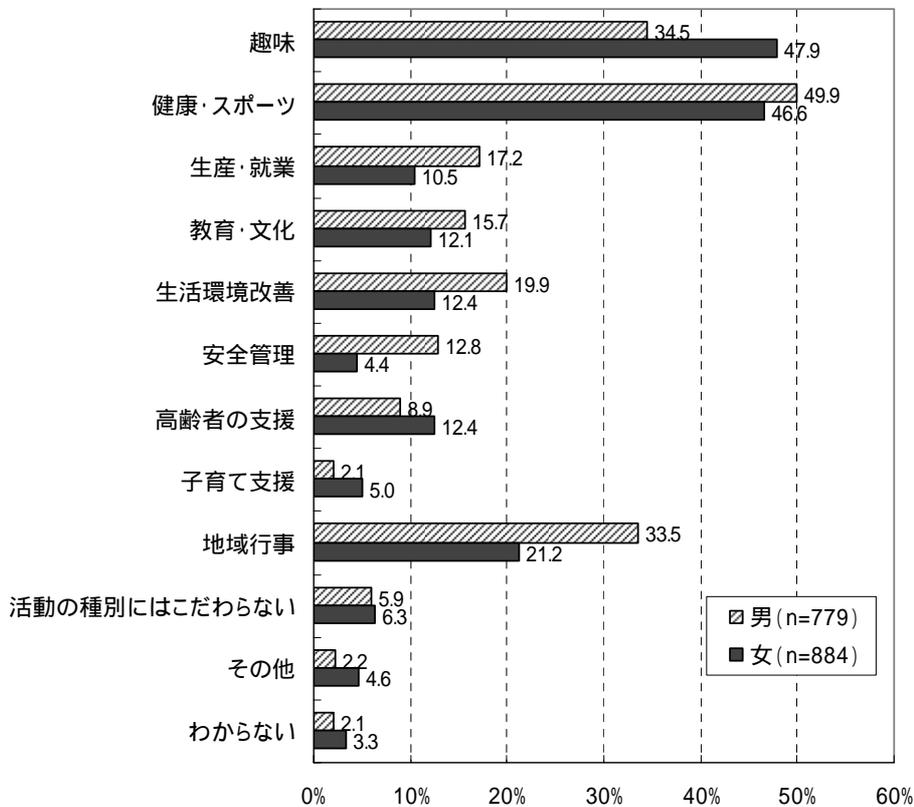
地域活動について、女性では「趣味」、男性では「地域行事」に対する関心が高く、参加も多い。

図表 13 1年間に最も力を入れた活動(60歳以上・男女別)



資料：「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（内閣府・共生社会政策統括官、平成 15 年）

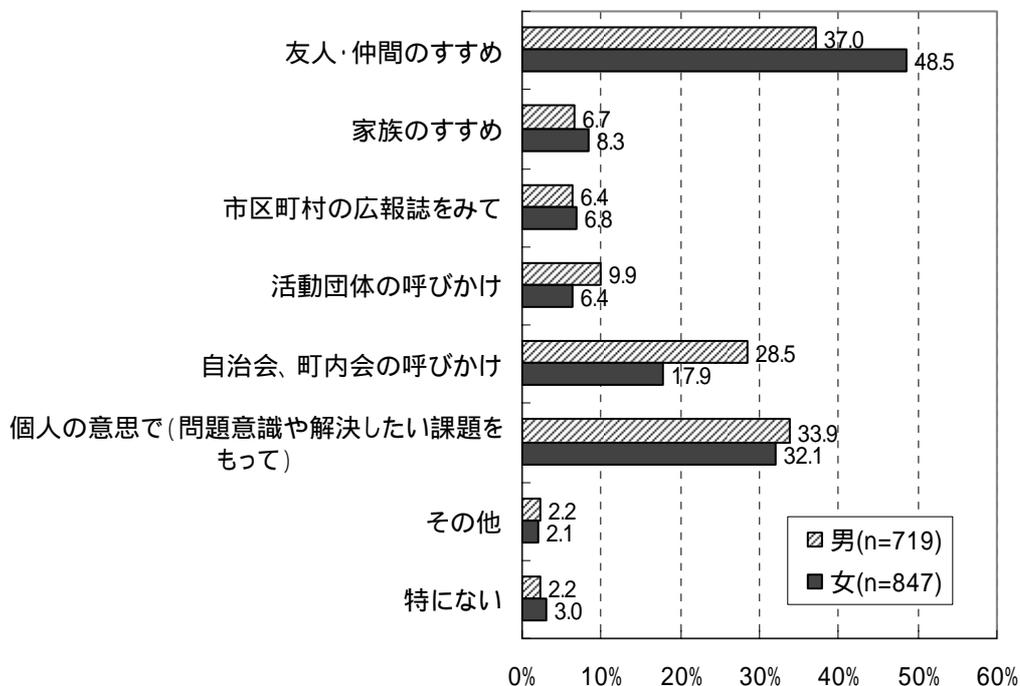
図表 14 今後参加したい活動・複数回答(60歳以上、男女別)



資料：「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（内閣府・共生社会政策統括官、平成 15 年）

地域活動に参加したきっかけは、女性では「友人、仲間のすすめ」が多いが、男性では「自治会、町内会の呼びかけ」が女性に比べて多い。

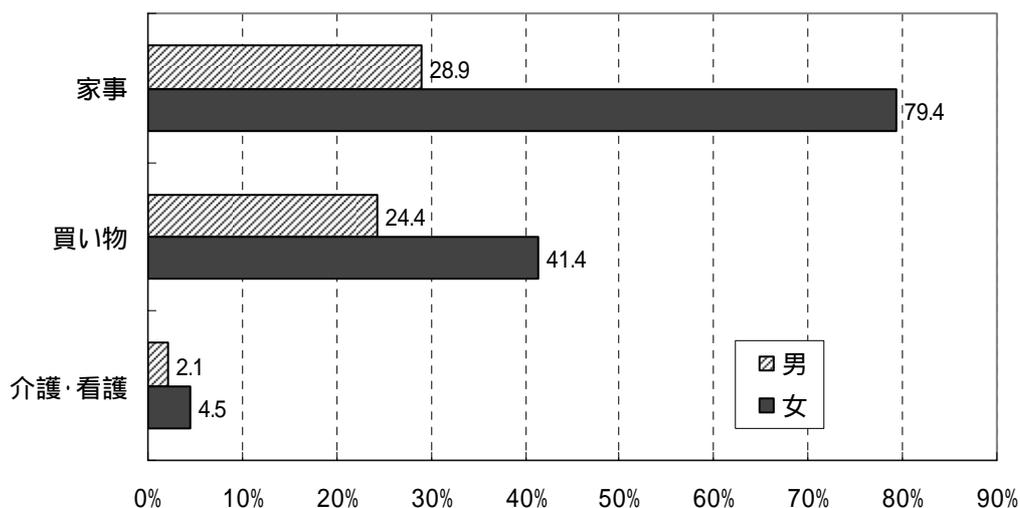
図表 15 最も力を入れた活動に参加したきっかけ・複数回答(60歳以上・男女別)



資料：「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(内閣府・共生社会政策統括官、平成15年)

家事等の実施率は、女性に比べて男性において格段に低い。

図表 16 高齢者の家事等の実施状況(1週間の行動者率・65歳以上・男女別)



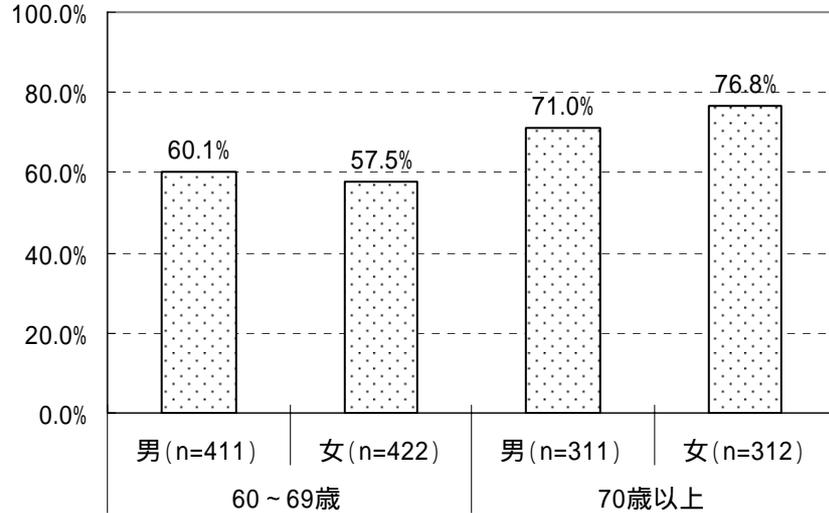
資料：「社会生活基本調査」(総務省、平成13年)

注：「家事」には炊事、食後の後片付け、掃除、ごみ捨て、洗濯、ふとん干し、衣類の整理・片付け等が含まれる。

(6) 健康に関する意識と行動

自分の健康について不安を感じる高齢者は、60～69歳で6割前後、70歳以上で7割以上にのぼる。

図表 17 自分の健康について不安を感じる高齢者の割合(年齢別、男女別、平成 17 年)



資料：「国民生活に関する世論調査」(内閣府、平成 18 年度)

健康の維持・増進に関しては、一人暮らし世帯の男性で意識が低い。

図表 18 高齢者が健康の維持・増進のために心がけていること・複数回答(65歳以上・男女別)

	一般世帯 男性 (n=513)	一般世帯 女性 (n=578)	一人暮らし世帯 男性 (n=189)	一人暮らし世帯 女性 (n=603)
休息や睡眠を十分にとる	59.1%	60.6%	46.6%	58.9%
規則正しい生活をする	50.9%	50.0%	33.9%	54.1%
栄養のバランスのとれた食事をする	50.1%	56.2%	35.4%	57.4%
保健薬や強壮剤などを飲む	6.6%	11.6%	7.9%	10.8%
地域の住民健診やがん検診などを定期的に受ける	21.4%	20.9%	16.4%	19.7%
酒やタバコを控える	20.7%	4.8%	19.6%	4.6%
体力を維持するための運動や散歩をする	40.4%	32.0%	35.4%	37.1%
体調に違和感を感じたら早めに医療機関を受診する	24.8%	24.4%	17.5%	26.5%
地域で行われる、介護予防や健康維持のための活動に参加する	3.5%	3.8%	3.2%	4.6%
気持ちをなるべく明るく持つ	28.7%	33.6%	21.7%	38.6%
趣味に熱中する	22.6%	18.7%	12.2%	23.2%
なるべく外出する	20.1%	21.5%	22.8%	28.0%
その他	1.8%	5.5%	5.8%	3.5%
特に心がけていることはない	10.7%	7.4%	14.8%	7.5%
わからない	0.2%	1.0%	-	0.7%

資料：「世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査結果」(内閣府・共生社会政策統括官、平成 15 年)